

議 長	会議を再開します。 <span style="float: right;">(午後 2 時 1 0 分)</span>
々	これより、飯田議員の一般質問を行います。8 番飯田議員。
8 番 飯田議員	<p>誘致企業、「株式会社三協」島根川本工場の現状と課題、その対応策を問います。8 番議員飯田です。目を瞑って聞かれると開かなくなる時間帯となりました。できるだけ、メリハリをつけて行いますので、よろしく願いをいたします。</p> <p>それでは、一般質問の通告を行っております。</p> <p>通告順に従いまして、1 項目の質問を行います。</p> <p>健康食品・化粧品受託製造請負及び小分け包装、カプセル製造機械設計製造販売、健康食品企画開発等を業務内容とする株式会社三協は、昭和 3 8 年 5 月 1 日、資本金 3 0 0 0 万円で設立をされ、静岡県富士市に本社を構え、「私たちは健康食品の企画、開発、製造を通じ、人々の健康と幸せに貢献をします」を基本理念にとされた会社であります。本町においては、平成 3 0 年 4 月 1 3 日に島根川本工場竣工式が挙行され、4 月 1 7 日より操業を開始をされ、現在に至っています。島根川本工場は、島根県企業立地促進条例に基づくものとしては、町内初の企業誘致は基より、その他としても本町として 5 5 年、半世紀ぶりの企業進出であります。平成 2 6 年 6 月、県より各市町に対し、立地可能性を正式に文書照会が 9 市町に通達があった中、本町は、それ以前に情報入手されていて、同年 1 0 月 2 日の立地呼び込みのプレゼンに向かい、6 市 9 ヶ所の石川社長夫妻による現地視察受入れの中から、本町の旧三原小学校跡地が選定され、企業誘致が行われた状況であります。時の流れとともに、島根川本工場における現状、今後の現状と課題、今後の町としての対応策をお伺いをいたします。</p> <p>まず初めに、平成の合併で単独を選択し、隠岐 4 町村を除き、県内で最も小さな人口、3, 0 0 0 人余りの町へ企業誘致を当時、副町長として県より出向して来られていた現野坂町長は、他の市町に先駆けて、どんな情報入手され、どのような思いの中で進めてこられたのか。数多くの職員や住民の皆さんの思い入れがあつてなし遂げられたことだと思っておりますが、町としての体制はどうだったのか、お伺いをいたします。</p> <p>次に、島根川本工場操業時に、3 年間で 5 0 人規模の従業員数が必要となると要請がありましたが、なかなかその数には至らない状況が続いています。本町としてどのような対応をしてきたのか、また、その結果、創業時から現在までの従業員数の推移、そのうち本町出身者の数はどのようになっているのかをお尋ねいたします。</p> <p>次に、本町が株式会社三協に行ってきた助成事業として、工場の敷地造成工事と、工場進入路、三原古市線新規道路のほかに私がこの事業は良かったと思うのは、川本町中小企業設備投資促進補助金、令和 6 年 3 月 1 8 日交付</p>

8 番  
飯田議員

決定、467万5千円は、従業員がなかなか確保出来ない状況の中、スティック形成機及びシール貼り機導入に、この補助金制度を創設されたことは、会社にとっても大きな助成となり、本町に対しての新たな信頼感が生まれたと思います。町長としてどんな思い、強い思いを持たれて、この補助金制度をつくられたのかお伺いするとともに、効果をどのようにとらえておられるのか、あわせてお伺いをいたします。

次に、株式会社三協から本町に対しての寄附・協力体制について、寄附金総額、令和5年度末累計では6000万円、河津桜の苗木の受納本数1,050本、町が主催する川本町一周駅伝競走大会に三協チームとして参加、昨年、令和5年は本社からもチームが参加されております。また、夏祭り花火大会への多額の寄附等が挙げられます。株式会社三協、石川社長ご本人が、三協60年の軌跡として書かれた「悔しさの経営法則」という本の中に、桜の植樹でがっかりという本文を書かれております。春は花見、秋は紅葉狩り、町民が楽しめるような場所にしたいと構想して町に河津桜の苗木を1,000本寄贈されました。拡幅した道路沿いにでも植樹していただけるだろうと思っていた。木が成長したら伊豆半島の河津町のように、見事な桜並木になるだろうと夢見ていました。ところが、川本町は、その桜を町民に配布してしまっていました。それでは単に桜の木の植わっている家がある、で終わってしまいます。思惑が外れ啞然となりましたが、気を取り直して新たに20,000本を4年から5年計画で町に送っています。今度は道路沿いや工場用地周辺に植えます。私は、物事に行き詰まると、来た道に戻ることはしません。行き詰まった地点から、左右に方向転換をする方策を見つけ出そうとするタイプです。バックするのが嫌な性分だと思います。島根の河津桜がぐんぐん大きくなり、静岡県河津町と同じ桜の名所となってくことを夢見ています、とあります。この反省を含め、石川社長の思いをどう捉えて今後対応するのか、お伺いをいたします。

最後に、税金を含めた株式会社三協に対する本町のとらえ方をお尋ねします。税金については、過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例に基づき減税措置があった期間を除き、令和4年度以降は納税事業者となっていると思われまます。それを含め、株式会社三協の石川社長の思いは、この川本町に進出してきた企業として、50年、100年先まで、町民の皆さんに三協が来てよかったと思っただけの工場にしたい。川本町の町民の皆さんとともに、外から来る人が、共に外から来る人が来る町にしたいという強い思いがあります。今後、町としての思いをどう町民に知らせていくか、お伺いをします。以上、答弁をお願いをいたします。

議 長

それでは、飯田議員の質問「「三協」島根川本工場の現状と課題・その対応策を問う」に対する答弁を求めます。番外野坂町長。

番外

飯田議員の「「三協」の島根川本工場の現状と課題・その対応策を問う」

野坂町長

についてお答えいたします。

1つ目のご質問は、「企業誘致が6市町9ヶ所の中から、本町に決定するに至った情報源は」とのお尋ねであります。私自身の生涯を通じて、恐らく最も記憶に残る取り組みの一つでなるでありましょう、三協の本町への誘致に向けた動きを、当時の記憶を呼び起こしつつ、振り返らせていただきます。最初の情報は、副町長として在任した初年度の年明け、平成25年の1月末に、県の商工労働部主催の企業誘致対策協議会への出席から帰庁した、当時の森川産業振興課長と高良課長補佐からの、次のようなものでありました。この会議後の懇談会の場で県の担当者から、「仮に川本町への進出を希望する企業があれば、用地の提供を含め可能性はあるのだろうか」との相談があったという報告を受けまして、私は即刻、当時の三宅前町長に「旧三原小学校校庭跡及び隣接地」これを候補とする案を具申した上で、間髪を入れずその真意を尋ねに、既知の県の企業誘致担当次長のところに出向きました。

「誠実で地道に働く若年人材が豊富な島根県に魅せられた農家出身の社長による健康促進企業が、都市部ではなく中山間地域でリーディング企業となり、自治体や地域の人々と一体となって地域活性化をしたいと考えておられ、川本町も有力な候補先となりうると思い尋ねてみた」という即答が得られました。これはですね、可能性のない話を相談するはずがないという、そういう直感のもとにですね。そして、これまたとない赤い糸、これに巡り会えるかもしれないと、このように直感しまして、そして何としてもこの赤いを手繰り寄せようと、その場で決意しました。私は即刻その意をその次長に伝えるとともに、しかしながら、その1年以上はですね、なかなか情報が入ってこなくて県に出るたびに情報を取りに行っていたという時代が続いたように記憶しております。私、在住の3年目の26年度に入ってからですね、いよいよ会社からですね本格的に適地の選定に動かれると、こういう情報が入ってまいりました。休日にはですねですね、耳にしたいいわゆる、今後競争になる、ライバルになる、そういった他市町の進出候補地ですね、耳に入った情報のもとにですねそこに出向いてですね、私なりにそのこのロケーションが、町長に具申した旧三原小学校とその隣接地ですねと、要はロケーション上、あるいはそのいろんな環境ですね道路を含めてですねどうなるんだろうかと、こっちにどの強みがあって向こうにどのような弱みがある、逆もあるんですけどそういうのをですね、現地を見ながらですね、分析らしきものをしてみたのも思い出します。またですね、県に出るたびにですね、当時県の企業誘致はですね、誰もが認める百戦錬磨という担当次長がおられまして、その方は尊敬申し上げてたんですが、いろんな折に触れて助言をいただきました。そん中で必ずおっしゃるのがですね、いかに地域を挙げた誘致体制を構築してそれを実践できるかだといったような、この地域でこんなスタイルやられましたとかですね、そんなアドバイスもいただきながらですね、まとめるとそういうことで必ずおっしゃったので、以後ですね私はそれを意識しながらですね、役場の職員やですね関わってほしい皆様、当時、三原のです

番外  
野坂町長

ね、4自治会長さんの自宅にもお邪魔したような記憶があります。神楽団さんにもお邪魔しました。いろんなことをイメージしながらですね、それをですね、このような誘致活動をしたいということで、秋になってですね、ほぼこれならですね川本にしか出来ない誘致ですね、町を挙げての誘致、これが出来そうだと思うようになった頃ですね、ちょうどですね平成26年10月、先ほど議員がご質問でおっしゃいましたように、10月2日ですね、各市町をですね、石川社長ご夫妻が歩かれてプレゼンを現地で聞かれるという場面でありましたが、まさに運命のですね、旧三原小学校における、石川社長ご夫妻へのプレゼンテーションを迎えたと、こういう情報入手とそれまでの経過だったように思います。

2つ目のご質問は、「島根川本工場の従業員数、またその中に占める本町出身者の推移は」とのお尋ねであります。このことに向けましては県と緊密に連携しまして、人材確保に向けたサポートをですね行ってまいりました。具体的に申しますと操業開始される前はですね、町内はもとより、近隣市町での会社説明会の開催や企業セミナーへの出展のほかですね、広報紙での周知などによって広く求職者へPRするとともに、町民の皆様への認知度の向上、これを意識しました。開始後はですね既卒者や、操業開始後はですね既卒者や高校生向けの企業ガイダンスや中学生と町内企業との対話セミナーなどのイベント。これに定期的に参加していただくことで、若年者への認知度を高め、地元就職率の向上に努めてまいりました。加えてですね、これは令和3年度から5年度まで3年間ですね、中山間地域の特定の立地企業に対して県が伴走型の支援を行う人材確保支援サポート事業、これに町としても協力しまして効果的な人材確保に向けたプロモーションや、従業員の定着対策の検討、これに取り組んだところです。こうした取り組みによりまして創業時、平成31年ですが12人がですね、現在40名体制になっております。このうち町内出身者はですね9人から11人（正：21人）と増えております。定住・移住の受け皿としてですね若年層の貴重な雇用の場ということとなっております。

3つ目のご質問は本、「本町が三協に行ってきた助成事業と、その効果は」とのお尋ねであります。議員ご指摘のとおりですね、この当時誘致の段階、それと連動した事業をですね行ってありますが、それに加えまして、昨年度の下期ですね新たに中小企業設備投資補助金を創設いたしました。タイミングとしてちょうどアフター・コロナですね、三協さんもやはり健康食品企業でありましたのでそこまで経営に大きな影響を受けておられませんでした。次に向かわれる段階ではコロナ中はそうではなかったんですが、どうも次に迎える、向かうための呼び水となる投資に向かわれたいという情報が入ってまいりました。こういった機を捉えまして、本町がですね将来にわたって持続可能な町であり続けるためには、まさに三協さんですね、雇用創出力の高い企業から次の投資を呼び込む、さらにまた、雇用創出力の高い企業を新たに呼び込みたいと、こういう2つの思いからですねこの制度を提案して

番外  
野坂町長

ですね、12月定例会で予算化をお認めいただいたところであります。議員ご指摘のとおり早速ご利用いただいた三協さんからはですね、生産性向上にものごく寄与してるということをお伺いしております。必ずや次の投資を呼び込むことにつながる呼び水になった制度というふうに、大いに期待をいたしております。また先ほど言いましたようですね、三協に続くですね、2つ目の赤い糸を手繰り寄せる、こういうものとなりますよう特にソフト産業にもですね適用できるよう制度設計をしているという、そういうふうな思いを持って制度化したものであります。

次に4つ目のご質問は、「三協から本町に対しての寄附、協力体制」のお尋ねです。ご指摘のように本当、これまで本町始まって以来、多額のご寄附をありがたくちょうだいしておりますし、毎年ですね河津桜の苗木をご寄贈いただいております。町道古市線沿いにですね、これまで1,050本の植樹を行ってまいりました。副町長時代の3年目の秋から冬にかけてだったと記憶しておりますが、石川社長がですね現在もご自身の企業経営の目標としておられる会社が、長野県伊那市にありましてですね、「伊那食品工業」というですね、そういう地域に根づいた企業であります。この企業が唱えておられる年輪経営というのはですね、石川社長さんもすごくですねこのことを意識しておられますが、この考え方に私自身も深い感銘を受けたということですね、この度、思い起こしながらですね、この2月、ちょっと時期は少し早かったんですが静岡県河津町を私自身も訪問してですね、見事な桜並木と賑わいづくり、これを体感してまいりました。議員ご指摘のとおりですね、記された著書の中に少し触れておられます。過去にですね一つがですね不十分であった、十分でない対応があったということはですね、真摯に反省してですね、そのことを認識した上で、現在着手している河津桜を中心とした公園整備をはじめとして、石川社長さんのですね町への思い、これを改めて地域の皆さんと共有し、そしてこの地に将来訪れていただけるでありましょう、多くの方々にですね思いを馳せながら、憩いの場、交流の場となるように取り組んでまいりたいと考えております。

5つ目のご質問は、「この税金を含めた三協に対する本町の捉え方」のお尋ねであります。議員ご指摘のとおりですね、これ法に基づく3年間の減税措置が終わりまして、令和4年度からはですね、会社からの固定資産税と従業員の皆様からの住民税含めて、いわゆる税源涵養で町への多大な貢献をいただいているということになっておりまして、この事実はまさに町内トップクラスという状況であります。本町への進出はですね。こうした税金面、雇用の場の創出などをはじめとする事業活動に伴う経済的効果だけでなく、町内の駅伝大会への参加などですね、地域の活性化といった面でも本当に好影響をですね、もたらしているというところでございます。町民の皆様には様々な機会を通じてですね、こうした三協の石川社長の思いや取り組みをですね、しっかりとお伝えするなどして、今後も一体となって発展していただけるよう取り組んでまいりたいと、このように考えております。

議 長

8 番飯田議員。

8 番  
飯田議員

5つの質問をしております。一つずつ順を追って、お尋ねをしまいたいと思います。まず1点目ですが、この事前の情報源というのは、取得に関しては、現野坂町長が副町長時代にされたものです。私も、こういう事前の情報源を、当時副町長だった野坂町長が情報入手されていたということは、なかなか知る機会もありませんでした。今回、この質問をするに当たって、三協関係の私に関与した事業に対して、こうしたファイルで閉じておりますが、その中に1枚ほどこうして野坂町長自身が自分で書かれて、例えば平成25年1月30日は、立地企業課、安川調整官にお会いしていろいろ情報をとというような文章を発見しました。これ、よく見たら取り扱い注意と大きな字で書いてあります。当時は全く、これを言う必要なかったんですが、今こうしてはじめて、この資料を見て実はこういう時から動かされていたんだなということ、今日の私がこういう質問をしたから、町民の皆さんは初めて分かった、そういう事実だと思いますし、これに携わってきた皆さんにも、皆さんでも知っておられる方はほんの僅かだというような気持ちがあります。そして、この野坂町長の情報源をもとに、みんなで考え、みんなでそしていろいろなことを用意しながら、10月2日、運命の日を迎えるわけです。これで、平成26年10月2日の立地呼び込みプレゼンには、地元4自治会長をはじめ、川本町商工会、地域おこし協力隊員、地元企業の会長、えごまの会の会長、地元議員などが参加してそれぞれの思いと歓迎の意を心を込めて石川社長ご夫妻と意見交換をし、石川社長夫妻は強い印象を持たれた、こういう事例の一つ。それから、この先、企業進出決定するまで、数々の催し物を次から次というように用意をされております。これも当時副町長だった野坂、現町長がやられたことです。その事例を一つ二つ挙げてみましょう。平成27年度の3月の13日から15日にかけて、工場現地視察として来町されたご夫妻を、谷戸イズモコバイモ群生地や、当時の明るい農村へ案内され、夕方からは本町で開催された全国小笠原サミットで、アトラクションの神楽鑑賞、夕食は石川社長ご夫妻の結婚50周年を迎えられたご夫妻へのそのサプライズに、野坂町長ほか10名の参加をしてお祝いしております。また平成27年5月14日に行われた、川本町と三協の工場立地に関する協定書調印式には、三協、県、町関係者17名、その他地元関係者約20名、総勢37名分の昼食を地元婦人部の方々が準備され、地元神楽団の神楽を楽しまれ、和やかな雰囲気でお迎えを出来ました。また、平成27年9月20日から22日、三協さんで実施された島根新工場視察と出雲の旅では、旧三原小学校工場跡地の視察に合わせて、三原連合自治会主催の敬老会へ総勢31名で参加され、地元住民約150名の温かい歓迎を受けられ、感動されて次の目的地へ行かれるなど、どれをとっても町の執行部、住民が協働でなし遂げた催しだったと思われそうですが、町としてどのような要因で企業誘致が決まったのか、そのお考えはどうでしょうか、お伺いをいたしましょう。

議 長

番外野坂町長。

番外  
野坂町長

議員がですね、ご指摘のありました平成26年10月2日のプレゼンではですね、これ全てを確認するすべ全くないんですが恐らく、県下で企業誘致活動で石見神楽にですね登場いただくのは初めてなのではないかという思いでですね、三原神楽団さんをお願いして、えびすを舞っていただきました。ご承知のように企業経営者というのはですね、いろんな景気の荒波にですね、あらわれることなのか験を担ぐ方がいらっしゃいます。この石川社長さんがですね風水に造詣が深くてですね、南東の方向をですね好んでおられたというのを、当時神楽団さんにお知らせしたんですが、この石川社長ご夫妻の前でですね、えびす、最後釣り上げた鯛の口からですね「歓迎、石川社長ご夫妻、ぜひ三原に進出を」といったようなですね、紙が口元から出てくると、そういったのを見てですね、社長ご御夫妻ですね、非常に感銘しておられたのこういうのを思い出します。それから先ほどご紹介があった、27年の3月の動きはですね、あれはこれはですね、あの当時ですね、このプレゼンテーションの進行役にですね指名しました、今の高良会計室長がですね、これは、当日もですね、高良会計室長ですね、高校出た後ですね最初の就職地が静岡県富士市でありですね、石川社長さんとの懇談の中でですね、富士市の商店街の特定の名前を出して、それで意気投合されたと言ったようなことを思い出しますが、この高良室長さんがですね、石川社長さんのご親族の方と情報を取られておまして、社長ご夫妻のですねこの結婚記念日が3月14日であるという情報が入りましたもんですから、その時にですね、歓迎のレセプションを飯田議員も当時植田議長もその場にいらっしゃったと思いますが、そのレセプションをですね行いました。若干手前みそになります。このですね、今の高良室長の下にですね、石川社長さんというのがですね、有名なマイウェイというですね、曲を好んでおられるという情報が入りました。その場でですね、職員に語学が堪能でギターが堪能な職員がいましたので、一緒にですね、ちょっと私もこの歌をですね、サプライズで英語でうたい上げたというのを、思い出します。身近な事例として二つ挙げましたけども、私が県に帰任した後、平成27年度以降もですね、これ関わられた皆様方がですね、自分事としてですね歓迎の振る舞いをですね、継続された結果がですね、これ28年の年度末ですね調印式、そして30年の竣工に、これに結びついたんだろうなと感じております。最もですね、印象深い出来事といいますのは、またこの26年10月2日に戻りますけども、全体のプレゼンテーションが終わった後にですね、これ地元の皆さんがですね、最後、社長ご夫妻が車に乗られて私もアテンドで車に乗りましたが、そこにですね石川社長ご夫妻を歓迎する垂れ幕と、そしてぜひ川本に進出をという横断幕、これをですね、車の大きくこう掲げて全員がですね、手を振られたということがあります。実はこの横断幕今から思いますと、今議場にいらっしゃる、当時の杉本課長にですね企画をお願いして、作成いただいたという記憶があ

番外  
野坂町長

るんですが、そのことをですねすごく感銘されてましてですね、当時のお送りした車の中がですね、そういう雰囲気ですね、温かい雰囲気に包まれたというのを思い出します。この立場になって昨年ですね年末ですか、石川社長さんがですね、三原に確保されました住宅にですね、お伺いする機会がありましたですね、その場でですね歓迎幕をですね大切に保存なさってるというのを知りました。やはりですね町を挙げて、地域を挙げてですね、このことで石川社長さんが三協に出ていただくために当時全て関わった人がですねそれ自分事としてですね歓迎の振る舞いを続けられたと、こういうことがですね、この県条例として初の企業誘致、川本としても半世紀ぶりの企業誘致、これに結びついたんではないのかなと、このように感じております。

議 長

8 番飯田議員。

8 番  
飯田議員

はい、今町長が縷々言われました。私もそのとおりでと思います。官民一緒になって、一つの目標に向かって、住民も一緒になってやった。これが大きな石川社長の感情を動かしたというように思っております。そんな中、2つ目の質問のところへ移りますが、これは最初、工場が進出されて操業を成された、成される時に従業員の3年間で50人、これが必要なんだよと言われておった時に、今この答弁にもありますように、9人から始まって今40人ということですが、当時、町内出身者の若い方が本社まで行って研修をされて、それで島根工場へ勤められた。なかなか定着をされないという時期がありました。社長にお伺いしても、どうして定着率が悪いんだろうかというような心配もされて、本当に自分としてはどうしようかなというような考えを持っておられた時があります。この点につきまして前町長が約束した50人規模の従業員の確保の支援は、未だに達成しておりません。従業員の家族、工場周辺の地域の人々もたいへん大事にされる会社です。社長本人も常にそう言うっておられます。毎年6月はじめ土曜日、日の出工場で行われる三協ほたる祭りには、従業員はもとより、その家族、地域の方々が入れ代わり立ち代わり多数参加されて大抽選会が行われます。これほど従業員を思い、大切にされる会社もそうあるとは思えません。ぜひ、島根川本工場で働いていただきたいと思います。企業進出時の石川社長は、2棟目、3棟目を川本に建設したいと言っておられました。5年ぶりに開催されたほたる祭りに今年は6月8日の土曜日に行われたようです。この日の出工場へ行かれた藤田副町長にお尋ねいたしますが、2棟目の建設の可能性をどう感じられたか。また、ほたる祭りの事態はどのように思われたか、また今まで副町長が、この三協と関わりを持たれてこられた、来たことはどのようなことがあったのか、その点についてお伺いをいたします。

議 長

番外藤田副町長。

番外  
藤田副町長

はい、まず三協のほたる祭りについて、その感想についてお答えをいたします。私4月に就任をしまして、今年5月に島根川本工場の方に見学をさせていただきました。私、県のほうでは企業立地課にも所属をしております、所属していた期間にですね、ちょうどこの島根川本工場の操業が始まったタイミングが重なっております、一度見学をさせてもらってます。それ以来5年ぶりの、今回見学ということになりました。県のほうではですねその見学をさせてもらったという以外には三協のほうには関わりはないんですが、そういったことがございました。そしてその後、6月の8日に、富士市の日の出工場で、これもしばらくコロナでお休みされてたようですが、5年ぶりのほたる祭りが開催をされまして、県の名古屋事務所の職員にも声掛けをして産業振興課の職員と、それとあと出店をされた町内の事業者さんと共に参加をしました。この祭りでございますが、福利厚生の一環として、社員さん、また役員さんが手作りで企画して運営をされておまして、議員おっしゃるとおりですね、社員やその家族、また地域の方々、そして取引先の方々、たいへん多くの方が参加をされ、たいへん賑わっております。祭りの中ではですね、そうした方々への感謝を込めたような企画、催しなんかもありまして、そうした様子を見ればですね、やっぱりその社員さんだとか、その家族、関係者を大切にするというような、この企業の社風をですね、肌で感じる事が出来ました。また我々の川本からの参加もですね歓待をさせていただきました、役員ですとか従業員の方ともお話する機会が、お祭り中の中でありましてですね、この川本への感謝ですとか、また今後の期待、そういったことも感じましたし、あとは同じ目的を共にするですね仲間とか、同士とか、そういったような一体感みたいなものも会話の中から感じたところでございます。石川社長とは、この機会に初めてお会いすることになりました。祭りの間ですね、幾度となくお声をかけていただきまして、テントの下で一緒に椅子を並べてですね、いろんな話を聞かせていただきました。島根川本工場の創設に至る経緯ですとか、その時の苦労ですとか、また桜の話ですとか、いろんなお話を伺うことが出来ました。また現在の操業状況なども教えていただきました。先ほど答弁でもご説明あったとおりで、徐々に従業員が増えておまして、これについてはやはり右肩上がりの企業の成長と、それを実現する技術力ですとか、営業力そういったことがあって、実現されているものだというふうに思います。

ご質問の2点目、2棟目の建設の可能性についてでございますが、5月に見学をしました島根県川本工場の操業の様子と、ほたる祭りでの石川社長との会話等を踏まえますと、可能性はあるのではないかなというふうに推察をいたします。しかしながらですね、当然のことながら経済情勢ですとか、当社の状況、また従業員確保の見込み、いろいろな条件がそろって初めて実現できるものだと思います。町にとってもですね、人口減少を考えた場合に、この町外の市場を獲得しておられて、成長の可能性の見込みがある企業というのは、人口維持という面でも欠かせないというふうに思いますので、同社

番外  
藤田副町長

とは、しっかり意思疎通を図る必要があると思いますし、私も企業立地課に在籍した中での経験を踏まえ、やっぱり誘致ですとかその誘致した後の企業の操業、そういった中では、やっぱりその気持ちが通じ合える関係と  
いいですか、信頼感といいですか、そういったものがないといけないという  
ふうに考えますので、雇用拡大ですとか事業拡大、またその地域活性化の同  
社の思い、そういったものを実現できるようにですね、サポートしてまいり  
たいと考えます。以上でございます。

議 長

8 番飯田議員。

8 番  
飯田議員

副町長も、そしてほたる祭り方へ行かれて、社風として感じられたように、  
私たちも、そういうふうな思いを持っております。

それから、次に移ります。石川社長夫妻が、川本町南佐木に建設された自  
宅に宿泊される度にお話をする機会があります。本年7月26日から28日  
に滞在された時、私はもう85歳になります。まだまだ生きるつもりですが、  
島根川本工場の隣にもう1棟建設を予定しているけど、今度は川本町は従業  
員を集めてくれるだろうか、言われました。私は県とタイアップしてそれ  
なりに動いてはいますとしか言いようがありませんでした。従業員数の確保  
が難しければ、川本町中小企業設備補助金の拡充しか私はないと思いますが、  
この点について、町長先ほど答弁をいただきましたけど、この補助金につい  
ては、私も雇用を創出の高い企業が、次の投資を呼び込むために必要なこと  
だと思っております。また、さらにソフト関係の企業も呼び込みたいという  
強い思いを持っておられますが、万が一、三協さんが、もう1棟建設を予定  
されると、従業員数がまず足らなかった場合には、これもこの補助金の要綱  
を入手していろいろ調べましたけど、1年に1回、そして、この投資を受け  
て2年以内に、創業を辞めた場合には返還の義務があるというようなことも  
ありました。三協さんに限ってそのようなことはないかと確信をしております  
が、この補助金についての拡充をさらに考えていくようなことはありますか、  
この点を1点。

議 長

番外野坂町長。

番外  
野坂町長

まずですね、当初の立地認定計画は50名を目標にしておられまして今、  
コロナ明けで40名まで持ってこられました。さらにですね、その将来、立  
地認定計画を超える、そういうような計画もあるやもしれません。  
まずはですね、県と連携して、一層連携してですね従業員の確保、これをし  
っかりバックアップをしていきたいと思っております。並行してご指摘のありまし  
たようにですねこの補助制度も、コロナ明けをみてですね三協さんの動向を  
見ながら、あるいはその三協さんだけじゃなくて、そのあとに続くですね、  
続いてほしい企業も想定しながら制度化したわけですが、三協さんのですね、

番外  
野坂町長

これまでのですね固定資産税、住民税ですね、その税源涵養面、さらにはですねいただいた寄附、あるいはその将来の三協さんが事業を継続されることに対する町ですね、町の効果を考えますと、今のですね上限500万というのは、余りにも低過ぎるような気もいたします。そこは、三協さんのですね、今後の設備投資動向を見まして、あるいはですね今の立地認定計画を超えてさらに増設みたいなことがあれば、当時最初の進出時ですね、そのときに合わせた制度化をして支援してますので、そういう段階になれば、さらに別の支援もあると思いますし、この制度をさらに拡充して支援すると、それは今後向かっていただける事業計画をですね勘案しながら、どう町がそれにですね、連携して取り組めるかということですね、しっかり意識しながら、制度の拡充さらには、別の線も含めて前向きに検討していきたいと考えております。

議 長

8番飯田議員。

8番  
飯田議員

やはりこの三協さんは、川本町にとって重要な企業だと思いますし、これは町の発展と共に三協さんも発展してもらわなくては、なかなかそういう関係にはなれないということを思っております。この点についてはその時期になると、さらに検討を重ねていただきたいと思います。

次に、4点目に入ります。石川社長が新たに2,000本の桜の苗木の寄贈を決められ、今、1,050本ほど植樹をしたというように思われます。しかしまだ、もう半分ぐらい、もう1,000本ぐらいは残っています。本人さんいわく「公園にも僅かな苗木しか植えられないっていうんだよな。近くの周辺にも植えてほしいんだけど、川本町の人は人がやってくれるのを待っているんだよな。もっと自分たちが自分たちの町がもっと本気になってほしいんだよな。植樹する場所がいろいろあるんだけどな。」、そういつも言っておられる。もっと工場周辺の山々の地主と話をして、植える場所を確保するとか、産業振興課だけで考えるのではなく、職員のOB、商工会の方にも手伝ってもらおうとか、公園にもっと植える数を増やすとか出来ないのでしょうかね。名原課長、どうでしょう。

議 長

番外名原産業振興課長。

番外名原産  
業振興課長

ただいま河津桜の話をいただきました。私が産業振興課に配属されましてこれまで550本植栽に関わってまいりました。コロナ禍もありましてなかなか直接社長とですねお話しする機会は少なかつたんですけども、石川社長の河津桜の思い、先ほど議員もおっしゃいましたけれども、私も電話等で話したときにはですね、やっぱりあそこの町道古市線、あそこをですね奈良県の吉野の千本桜のように、集中的に植栽のほうをしたいんだというふうにおっしゃっておられました。これまで古市線沿いに1,050本植栽してまい

番外名原産  
業振興課長

りましたけども、沿線への植栽につきましては土類時の観点から、植栽出来ない箇所もございまして、またその私有者の方の意向もございまして、なかなか植栽のですね箇所の選定に時間を要しているところでございます。現在のところですね、近隣で植栽の適地を探しているというふうな状況でございます。また計画していました南佐木地区へのですね公園の桜の植栽の計画につきましては、公園整備が今その通年で楽しめる公園として、地域の方もですね踏まえて河津桜だけではなくて町木であるサツキやモミジ等、こういったものをですね植栽するように計画のほうをしております。そういったわけで河津桜だけっていうふうにはまいりませんが、今選定箇所をですねいろいろと探しているところで、公園のですね周辺の敷地へもですね植栽出来ないかどうかというところを、ただいま検討しているところでございます。多くですね、河津桜の植栽ができるようにですね、地域の方にご協力をいただきながら、進めてまいりたいというふうに考えております。以上です。

議 長

8番飯田議員。

8番  
飯田議員

以前はね、なかなか出来ない、そういう時期もありました。けども、やっぱり当たってみると、交渉してみんななかなか前へ進みません。先ほど言いましたように、町のOBの方で、今、商工会の方へ行っておられる方が、自分は手伝ってもいいよと言ってきております。早速当たってくれました。良い返事をもらいましたよという報告をいただいております。はっきり言って、副町長がまた三協さんの方へ訪問されて、公園の構想と周辺の方へ、どんだけの桜の苗木を植えられるか定植されるか報告されるようです。副町長に肩身の狭い思いをさせないように、しっかり準備をしてここはこういうふうにかんだけ植えられるよと言って帰っていただけるような、ようにしてほしいし、また今、本気で動いてくれる人もおりますので、そここのところはしっかりお願いをしておきます。

時間が迫ってまいりましたので、5つ目の質問に入ります。

令和4年度以降、恐らく本町におけるトップクラスの納税者だと思われる。2棟目の工場が建設され操業が始まれば、さらなる税収が見込まれます。50年100年続く工場にしたいと石川社長の思いを、さらなる川本町の発展につながるよう、連携を密にして経済成長を図っていただきたいし、川本町の発展は三協と共にあると確信をしております。本町の考え方はどうでしょうか。この7月に川本の夏祭りに来られた時にお話をしっかりされると思っています。野坂町長、どういうふうな、どのような話をされたのか、また、この赤い糸のもっと太く絆を持っていただけるような、そういう方向性で町民の皆さんにも町としての方向性を、さらにどういうふうな方向性でいくのか伝えていただきたい。町長の思いを最後にお聞きして、この質問を終わります。

議 長

番外野坂町長。

番外  
野坂町長

私は4年前の就任に当たりまして、地域との協奏というですね政治信条を掲げました。このですね意図は、これまでも述べてきているとおりであります。この中にですね地域との協奏の「協」の字を入れましたのは、まさに三協さんを意識してのことでもあります。これ以前にも述べましたが、そして「奏」ですね、もちろん音楽のまちを意識して、あるいはそのですね、奏でるというそのみんなと一緒に奏でるというそういう姿勢を意識してですけども、以前に申しましたように、この字はですね事を成し遂げるとい、そういう意味も持った字であります。2期目に当たりましてですね、この地域との協奏の前にもっとという副詞をつけました。まさにですね、議員ご指摘のとおりですね、赤い糸を、手練り寄せた赤い糸をさらに太くする、こういうことに向けましてですね、そういう意味で地域の皆様と共に、三協と共にですね、この地域を作り上げていく、そういう動きをですね、さらに強めていきたいという決意を、ここに申し上げておきたいと思っております。

(「終わります。」飯田議員の声)

議 長

以上で、「「三協」島根川本工場の現状と課題、その対応策を問う」の質問を終了します。

々

これをもちまして、飯田議員の一般質問を終了します。

々

ここで、暫時休憩します。(午後)3時15分より再開いたします。

(午後3時04分)